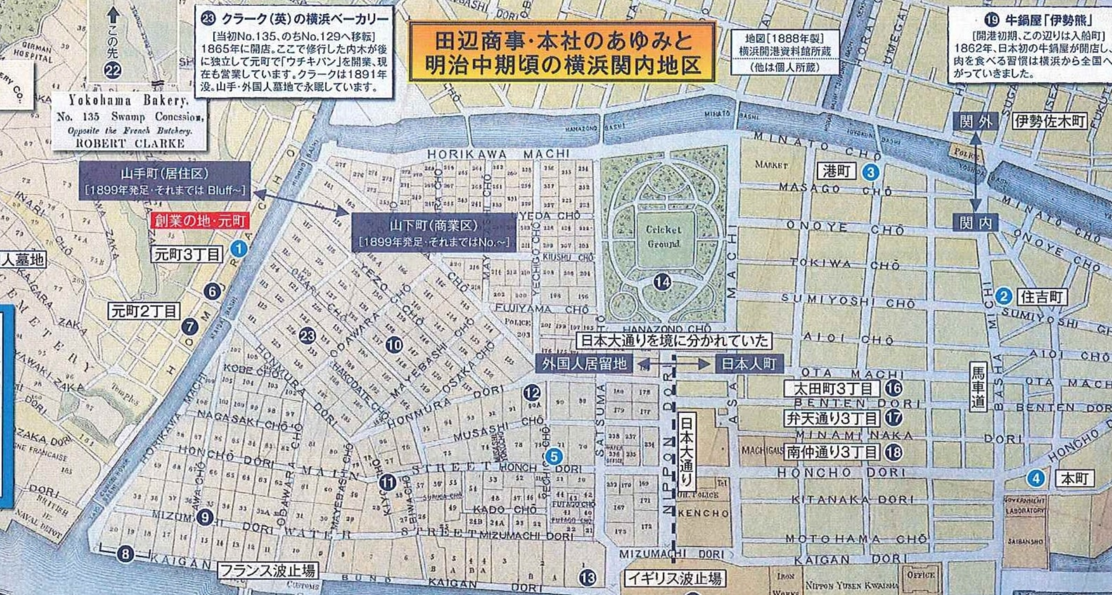
田辺商事・本社のあゆみと明治中期頃の横浜関内地区

地図［1888年製］横浜開港資料館所蔵
（他は個人所蔵）



THE JAPAN BREWERY CO. LIMITED.

Yokohama Bakery.
No. 135 Swamp Concession,
Opposite the French Butchery.
ROBERT CLARKE

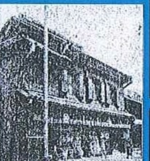
① 田辺屋

元町3丁目122
［1867(K3)年～1920(T9)年頃］

（合資会社）田辺屋貿易店・小売部

［1920(T9)年頃～1937(S12)年頃］

砂糖石油種油
米利堅粉商
横濱市元町三丁目
田邊屋幸七
電話七三〇番



砂糖の輸入販賣に従事す
時に慶應三年なり

「横浜成功名誉鑑（明治四十三年刊）」より

近火御見舞ヲ謹謝ス
（横濱市元町三丁目）
田邊屋幸七
（電話七三〇番）

元町三丁目
田邊まね子

砂糖小麥粉貿易商
田邊屋貿易店
横濱市元町三丁目
電話本局 七三〇 三二九八

出火もあったようです。

② 田辺屋・支店

住吉町5丁目59（当初58）馬車道通り
［1902(M35)年5月～1920(T9)年頃］

合資会社 田辺商店

［1920(T9)年頃～1923(T12)年頃］

（株）田辺商店・本社

［1923(T12)年～1967(S42)年］

砂糖小麥粉貿易商
株式會社
田邊商店
横濱市中區住吉町五丁目
電話長者町 四一二二 三〇五〇番

同住吉町五丁目（馬車道通り）
支店
田邊屋商店
電話本局二四五・二〇四〇

横濱市住吉町五丁目（馬車道通り）
田邊屋支店
電話一七八二番

③ 田辺屋貿易店・卸部

港町2丁目-5（当初10）河岸
［1920(T9)年頃～1922(T11)年］

合資会社 田辺屋貿易店

［1922(T11)年～1937(S12)年頃］

（販売先）東北、北海道、北陸の各地方
千葉、山梨、神奈川
（仕入先）中国［天津、上海、大連、漢口］
朝鮮、東京

田邊大藏
横濱市港町二丁目河岸
電話長二七〇番

砂糖、小麥粉、穀、石油、醤油
紐育スタンダード石油會社代理店
合資會社
田邊屋貿易店
横濱市港町二丁目河岸　電話長(3)一五五一番
同　市元町三丁目　電話(2)三二九八番

④（株）田辺商店・本社

中区本町6丁目51
［1967(S42)年～1987(S62)年］

田辺商事(株)・本社

［1987(S62)年～1999(H11)年］

※手前の建物は横浜支店でした。

⑤ 田辺商事（株）本社

横浜市中区山下町71番地2
［1999(H11)年～現在］

※番地は当時と同じNo.71です。居留地の番地は今もほとんど変わっていません。

⑥ 元町3丁目付近

奥には「元町百段」という長い石段があり、港を一望できました。

⑦ 元町2丁目付近

山手・山下の外国人相手に、当時の日本には珍しい店が軒を連ねていました。右側に元町で創業した「不二家」の看板があります。

⑧ 横浜グランドホテル

当時の日本を代表するホテルでした。関東大震災で全壊し、資本は違いますが、ちなんだ名でホテル・ニューグランドが1927(S2)年にできました。

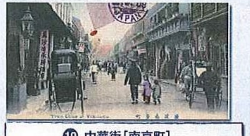
支配人のルイス・エッピンガーはカクテルに造詣が深く、国産初のオリジナル「バンブー」を生み出しました。

⑨ フランス領事館

開港初期は日本に郵便制度が無く、領事館が郵便局となり居留民と母国との通信をつかさどっていました。

▲封筒裏面の消印
YOKOHAMA
15・JUIN・67

1867年4月27日 マルセイユ（仏）差出 ▶ 6月15日 横浜着



⑩ 中華街［南京町］

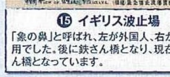
開港当初から中国人は西洋人の貿易仲介（漢字で日本人と筆談できる）や使用人として伴われ、徐々に華僑の街を形成していきました。

⑪ 外国人居留地

現在の田辺商事前の通りはかつてメインストリート（本町通り）と呼ばれ、西洋のような街並が続いていました。

⑫ シーベル・ブレンワルト商会

スイス人の商社で、この辺りは外国の生糸輸出商館が立ち並ぶシルク・タウンでした。
（現：ロイヤルホールヨコハマ）



JARDINE, MATHESON & CO., LTD.
No. 1, YAMASHITA-CHO,
YOKOHAMA.

⑬ ジャーディン・マセソン商会（英）

居留地の1番地に商館を構えたので「英一番館」と呼ばれ、開港初期は砂糖の輸入、生糸の輸出など日本の貿易額の2割を占めた巨大な商社でした。

⑭ 横浜公園

［現：横浜スタジアム所在地］当初あった遊郭が焼失し、1876(M9)年に完成。日本初の日本人も利用できた洋式公園で桜の名所としても有名でした。

⑮ イギリス波止場

「象の鼻」と呼ばれ、左が外国人、右が日本人用でした。後に鉄さん橋となり、現在は大さん橋となっています。

⑯ 大戸屋・吉田直太郎［太田町3丁目］

砂糖引取商で吉田伝次郎が慶応年間に創業し、明治24年に承継。田辺屋とも懇意にしていたようです。引取商は外国商館が輸入した砂糖を引き取って市場へ流通させる形態です。

生絲賣込問屋
横濱辨天通三丁目
亀屋
原善三郎

HARA GOMEI KAISHA
大日本横濱
原合名會社
YOKOHAMA JAPAN

⑰ 亀屋・原善三郎［弁天通り3丁目］

横浜は生糸を中心に栄えた港で、茂木惣兵衛と共に横浜を代表する生糸売込商でした。後継の富太郎は群馬の富岡製糸場を経営するなど近代事業にも乗り出しました。

◀▲
封筒裏面の拡大

⑱ 増田屋・安部幸兵衛［南仲通り3丁目］

増田増蔵と並び、横浜を代表する砂糖引取商でした。
［武蔵・横浜：明治24年6月24日差出の封筒］

⑲ 牛鍋屋「伊勢熊」

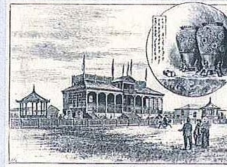
［開港初期、この辺りは入船町］
1862年、日本初の牛鍋屋が開店し、牛肉を食べる習慣は横浜から全国へ広がっていきました。

⑳ 初代・横浜駅［現：桜木町駅］

1872(M5)年10月14日日本初の鉄道が横浜-新橋間で全通。馬車で4時間かかったこの区間を53分で走ったそうです。

㉑ ジャパン・ブルワリー

1885(M18)年に設立されたビール醸造所で、キリンビールの前進です。



㉒［この先］根岸競馬場

1866年秋に完成、横浜レースクラブに使用権が与えられました。これは天皇賞の起原となった「ミカドズベース」の絵です。西洋人は他にもヨット、演劇、野球、晩餐会など様々な故国の娯楽を持ち込み、生活を楽しんでいました。

㉓ クラーク（英）の横浜ベーカリー

［当初No.135、のちNo.129へ移転］
1865年に開店。ここで修行した内木が後に独立して元町で「ウチキパン」を開業、現在も営業しています。クラークは1891年没。山手・外国人墓地で永眠しています。

残念ながら、開港期の面影を残す建物は関東大震災（1923年）と横浜大空襲（1945年）で大打撃を受けほとんど残っていません。

▲《震災で残った横浜開港記念館・大正12年9月1日》

◀《降伏調印式・昭和20年9月2日》
横浜本牧沖、戦艦ミズーリの船上でおこなわれました。
（中央はマッカーサー）